

## 小項目評価の論点に関する検討結果（案）について

## 1 論点に関する検討結果（案）

## II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

平成 19 年度計画	番号	ウエイト	自己評価	委員会評価	判断理由・コメント（案）
全学的経営戦略の推進	(130)	2	Ⅲ	Ⅳ	○外部研究資金を取ると言うのは言うは易いが、実際には難しい。それを実現していることは評価できる。 ○学長裁量経費を措置し、国に採択されなかったが評価の高い事業や業績の高い教員に対する重点的な研究費の配分など、外部研究資金獲得のためのインセンティブを高めることに活用したことは、他の大学への先例・模範的な例になる。 ○多くの外部資金を継続的に獲得しており、制度的に優れたものとしてⅣと評価する。
講師以上の職階における任期制導入の検討	(158)		Ⅳ	Ⅳ	○平成 19 年度から理事長預かり枠による講師以上の採用者に任期制を導入し、平成 20 年度からの任期付教授の採用に向け、規程整備を行っており、計画以上の進捗があったことから、自己評価のⅣは妥当であると判断した。

## III 財務内容の改善に関する目標

平成 19 年度計画	番号	ウエイト	自己評価	委員会評価	判断理由・コメント（案）
外部研究資金の獲得	(166)	2	Ⅳ	Ⅳ	○18 年度に引き続き、中期計画に掲げる目標（30%増）を実績が大幅に上回っている（62.4%増）ことから、高く評価するとともに、自己評価のⅣは妥当であると判断した。
教員のインセンティブ保持方策の実施等による外部研究資金獲得強化	(167)	2	Ⅲ	Ⅳ	○18 年度に整備された事業管理者制度を活用して受託研究契約を行い、大型プロジェクトを2件獲得しており、Ⅳと評価した。
ロイヤリティ収入の獲得	(168)		Ⅲ	Ⅳ	○ロイヤリティ収入額が大幅に増加しており、取組みの成果が現れていることからⅣと評価した。 ⑱実績：7,426 千円
既存施設の共同利用、共同活用の推進	(176)		Ⅲ	Ⅱ	○高額で大型の研究用機器を共有利用できる仕組みを考え、同時に近隣の大学の研究者と共同研究するというのは、公立大学の1つの大きな社会的使命と考えられる。 ○文部科学省も大型機器の共同利用を促進すべきとの考えであるが、実際上は、メンテナンスや課金の問題、同じような研究でも共同利用が難しいなどの課題がある。 ○データベースは一定整備されているが、運用に向けたルールの検討が計画通り進捗していないことから、改善に向けた取り組みを進めるためⅡ評価とする。

## V その他業務運営に関する重要目標

平成 19 年度計画	番号	ウエイト	自己評価	委員会評価	判断理由・コメント（案）
高額で大型の研究用機器の共同利用推進のためのルール検討	(195)		Ⅲ	Ⅱ	○高額で大型の研究用機器を共有利用できる仕組みを考え、同時に近隣の大学の研究者と共同研究するというのは、公立大学の1つの大きな社会的使命と考えられる。 ○文部科学省も大型機器の共同利用を促進すべきとの考えであるが、実際上は、メンテナンスや課金の問題、同じような研究でも共同利用が難しいなどの課題がある。 ○データベースは一定整備されているが、運用に向けたルールの検討が計画通り進捗していないことから、改善に向けた取り組みを進めるためⅡ評価とする。

2 小項目評価（I～V）の分布状況

	評価対象 項目数	I	II	III	IV	V
		計画を大幅に 下回っている	計画を十分に 実施できてい ない	計画を順調に 実施している	計画を上回っ て実施してい る	計画を大幅に 上回って実施 している
教育研究等の質の向上	125					
業務運営の改善及び効率化	35	0	0	33	2	0
財務内容の改善	15	0	1	11	3	0
自己点検・評価及び情報提供	6	0	0	6	0	0
その他業務運営	20	0	1	19	0	0
合計 ※（ ）内は「教育研究等の質の向 上」を除いた合計	201 (76)	0	2	69	5	0